

かけだ詩④

そだちと臨床研究会

川畑かわばた  
隆たかし

しばむ

三度と書いて  
みたびと読んでもらおう  
と思つたら  
二度はふたたびと読めるんだ  
と気がついた  
再びは二度(ふたたび)なんだ!

道路はロードだけど  
これって偶然なのかな  
と考えたことがあつた  
名前はネームだけど  
英語で綴るとナメエ (name)  
じゃないか!

言葉の面白さに盛り上がりかかる  
でも他の例がなかなか思い浮かばない  
しばむ

すれちがい

「ちやう(違)う)ねん ちやうねん」  
と言つてから話すので  
何が違ふのかとよく聴いていると  
何も違わない

「みんなそうやで」  
と言いつてしまふけど  
たしかに多いかもしれないとしても  
みんながそんなことはないでしょう  
どうしても  
言葉の意味と理屈を聴いてしまふ  
だから  
相手の勢いを止めて指摘する

でも自分の言い分を際立たせたくて  
勢いで使う習慣の言葉  
その習慣に浸ることも  
根っからじゃない関西人の憧れ

またこたわつてしまった  
安心して話せない  
思わせてしまったんじゃないか  
文化間ギャップだと大層な言葉を弄ぶ

「絶対そうやで 知らんけど」  
知らんのかい！  
指摘じゃなくてツツコミか  
つまり  
やっぱりボケなんだ あれは

いっちょまえ(いちにんまえ)

原稿用紙に手書きしても オンラインで投稿するんだから  
最初からワードで書くか

でもなかなかそこに移れない アナログを捨てきれない  
…なんて大層な アナログ度は変わらないのに  
…いや やっぱり書く内容が違ってくる？

ワープロ専用機は私にとって「革命」のツールだった  
手書きは考えてから書く ワープロは書いてから考える  
それは清書へのプロセスの負担の違い  
これが大きかった だから結構書けた そして考えた  
学生たちにもその恩恵のエッセンスを手渡したかった  
「悲しいから泣く」んじやなくて「泣くから悲しい」  
ジェームス・ランゲ説も引き合いに出して

「回答を考えてから手を挙げる」んじやなくて  
「手を挙げてから考える」という秘訣を伝授した  
その甲斐は何もなかった

さて ここまで手書きした ワープロに移したくなった  
ここからはワード画面だが 移しながら手直しもした  
手直しの負担はない そのおかげもあって  
ここまでの完成度は低くないし 少しの自信も支えている  
したがって 最後まで行きつく見通しも 低い山もうひと越え

やっぱり これだね 「いっちょまえ」に見えるってこと  
グズグズした私の思いや考えが人前にも通用するかなって  
ちよっと思わせてくれる魔法

だとすると「かけだ詩」は手書きから入ることにおいて  
ワードには対人援助職でいてもらおうか

ジェームス・ランゲ説：前行に書いたとおりの説。

もう三十数年前の話。京都府の児童相談所で、団士郎さんはエプソンのラ  
ップトップのワープロ専用機で液晶画面がスリットのように細いワード  
バンク？を使っていた。私の周りでたぶん最初に専用機を買った新し物好  
きの高橋正記さんは、プラザーのピコワードから始めたんじやなかったか  
な、タイプライターみたいなやつ。早樫一男さんは東芝のルポだったかし  
ら、フロップディスクの前の記憶メディアがたしかオーディオテープだ  
った。川崎二三彦さんはNECの文豪かシャープの書院のどっちかだった  
と思う。ちなみに柴田長生さんはずっと最初からパソコン。私はといえ  
ばサンヨーのサンワードで、記憶装置の機能に互換性ができてからはカシオ

のダーウイン。周りのみなさんがパソコンに移行した後も私はずっとダーウインで通っていたし、最後までそうだと公言していたが、いつのまにか一太郎の前に座っていた。

### ストックく護られた記憶

過保護がダメだとか

自主性をどう育てるかとか言いますが

周りから十分に世話される

受け身の体験は大切です

赤ん坊は百パーセント世話されないと

生きて行けません

突っ張ってる十五歳のにいちやんだって

世話なんかいらねえという顔をしていても

世話されなければ心細いものです

世話されるとは

護ってもらえることでもあります

十分に護ってもらえていない子どもたちに

児童相談所でたくさん出会いました

表に出ている問題行動や症状が何にしる

少しでも護られている感覚ができてきたら

子どもたちは変化するのです

それはそうでしょう

生きていくのが大変なことって何歳でもありますから

周りが自分のことを護ってくれなかったら

自分で自分を護らなければしようがありません

でも自分を必死で護っているときには

そのことだけで頭も身体もいっぱい

自分勝手まっしぐらです

周りのこととか先のこととか他のやりかたとか

いろんなことを考える余裕なんてありません

大人でもたいへんなことを子どもがやっていますから

自分を護る行動はいつそう問題行動になってしまいます

自立とは

どんな状況でも一人でやっていけることではなく

必要なときには他人の力を借りられることです

その力をつけ発揮できるためにも

世話してもらい

護ってもらい

受け身の心地よい感じを知っておくことが大切です

### 夕方の居間

子どもがお母さんにこっぴどく叱られている

もう許してやれよ　そこまで言わんでも…  
部屋の隅の方で黙って新聞をひろげている  
お父さんの手に力が入り汗がにじむ  
子どもを救ってやりたい  
でもそんなことをすると火に油を注ぐ

そんな妹の状況を横目で見ながら  
寝そべってマンガ本を読んでいた姉  
わが身にも火の粉のとぶ危険を察知したんだろう  
散らかした本とランドセルを素早く両脇に抱え  
一目散に二階へと駆け上がっていく  
感激した

状況をみてわが身をまもる機敏な動き  
ちゃんと育ってるじゃないか

そんなことを思っていると  
叱られている妹のほうも叱られ強い  
涙をこらえ

すべきと言われたことを今度は頑固にしている  
そして嵐は去った

妹も偉かったし  
お母さんも偉かった  
そしてお姉ちゃんも偉かった  
最後にお父さんも偉かった  
だって

すぐに子どもを救いにかからなかったから  
しんどかったけど

### たまりかねての言い分

俺めっちゃ腹立ってんねん

どうしたどうした

俺わるいことばかりやってるやん

自分でわかっているんや

わかっとなるわい　馬鹿にしとんのか

してへんけどさあ　それで

こんだけわるいことやつとんのに

うちの父ちゃんと母ちゃんなあ

やめとけとかどうとか

俺に何も言わへんねんで

そんな無責任な親っておるか！

ああそうなんか　それで腹立っとなるんやな

木の絵を描かせても紙から大きくはみ出す  
中学生の男の子

凶体も大きいその子の口から飛び出した

素直で可愛らしい　そして切実な願い

周りから一目おかれて

ヒーローみたいに祭り上げられ

自分でも舞い上がっているところがあつて

引っ込みがつかない

父ちゃんと母ちゃんが

やめとけとかどうとか言ったとしたら  
きつと反発は大きかろう  
でも 糸の切れそうな風の  
俺どこかにとんで行ってしまおう！  
という不安も大きかろう

お前のおるところはここや  
ここでちよつとはおとなしゅうしとけ！  
自分を地面に引きずり下ろしてくる力：  
それをこの子は父母の養育力だと  
捉えているらしいところが  
可愛らしい

### 普遍的意識

僕が始めても  
みんなは始めない  
一人が変わっても  
何も変わらない  
一人からしか始まらないという  
理屈はわかるけど  
一人から始めても  
一人で終わったりして

第一  
広めようなんて思わない  
勝手に一人でやったらと  
言われるのが関の山

そう  
君はスターじゃない  
みんなが振り向くカリスマじゃない  
ただの一人のふつうの人

そして  
周りのみんなもふつうの人たち  
一人が変わっても  
何も変わらないと思っているみんな

だとしたら  
君が始めようと思うときには  
同じように思う人がみんなの中にきつといる  
広めようなんて思わなくても

そんなふうには  
君がまだ見つけられていない回路はないか  
一人のことは一人のことでない  
同時代の生物としての人間たちの可能性